

《ムジカコスモス vol.04》 出演者 森下由貴・加藤綾子より

《ムジカコスモス vol.04》公演にお越しくくださる予定だったみなさま、楽しみにして下さっていたみなさまへ、まずは、2020年2月29日に更新した開催方針を覆す今回の決定と、そのご報告が開催直前となってしまったことにつきまして、出演者一同、深くお詫び申し上げます。

本公演については、私共も直前まで開催を執行するつもりでございました。政府からは自粛「要請」のみの段階、また、定員80名の会場で、多くても50名程度の来場見込みであったため、「大規模な」イベントには当てはまらない。主催者による感染症対策を重ねた上での開催であれば、リスクは低いのではないか——といった想定で、準備・リハーサルを重ねておりました。

しかし、刻一刻と変化していく状況、増え続ける感染者数、政府等公的機関からの度重なる声明を受け、日に日に、

「本当に、今この状況で、コンサートを開催して良いのか？」

「万が一お客様に何かあった場合、主催者として自分たちに責任は取れるのか？」

「開催を強行する以外に代替案はないのか？」

という思いが強くなりました。

率直に申し上げれば、先月末からたびたび発表されているイベント自粛要請について、音楽周辺を含めた興行業界では、多くの疑問や反発の声が上がっております。何も興行側が感染の責任を負うことはない、ここで興行者みずから自粛の同調圧力を強めてはならない、という声もございます。

しかし、我々音楽家は観客あつての職業であり、人と人との接触なくては実現しえない仕事だと、私共は思います。

音楽は、演奏する人間と、それを観る・聴く人間がいなければ成り立ちませんし、一方で、いくら音楽家が準備を重ね、赤字を背負っても、それは、お客様の身の安全とはなんら関係ありません。それとこれとは、まったく別の問題として考えるべきではないでしょうか。確かに音楽は、不安の最中に一時の安らぎや享楽をもたらすかもしれませんが、音楽を生で観賞すると免疫力が高まるとか、ヴァインベルクの不協和音がコロナウィルスをやっつけてくれるとか、そんな話は残念ながら聞きません。モーツァルトの音楽はレタスをおいしく育ててくれるのに。

ここまで来てしまつてはもはや、問題は、コロナウィルスよりインフルエンザのほうがよっぽど怖いとか、そういう話ではない。何よりもまず、観客ならびに関係者の感染リスクを少しでも抑えるべきである——という認識に、私共は至りました。

そして、このような困難な状況の中にもかかわらず、それでもなお本公演を楽しみにしてくださっている方々に、どうしても報いたかった。

そうして下したのが、今回の「公演延期」、そして「動画配信」という決断でした。

本公演を楽しみにして下さっていた方々、御助力いただいた方々。開催方針を更新し、広報を重ねていながらの決定となつてしまいましたこと、開催直前のお知らせとなつてしまったこと、繰り返しお詫び申し上げます。どうかご理解を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。そして、この上大変厚かましいとは存じますが、どうか今後とも、《ムジカコスモス》ならびに出演者一同を見守っていただければ、幸いです。

2020年3月4日（水）

《ムジカコスモス vol.04》出演者 森下由貴・加藤綾子